

演題名	車椅子レンタルにかかるコストの削減		
施設名	湘南慶育病院	発表者(職種)	まるやま しょう 丸山 祥 (作業療法士)
チーム名	シーティング		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした問題課題	入退院のサービスの一環としてレンタル車椅子を提供しているが、患者さんの身体能力とミスマッチしたセミオーダー式車椅子を提供し、高コストとなっているという問題がある。 また、入院目的や歩行器と車椅子のレンタルを併用するために病棟内にストックされている車椅子の定数の見直しが必要である。		
改善の指標とその目標値	(指 標) 新規入院患者さんと病棟保管用の1か月のレンタル車椅子にかかる総負担費用 (目標値) 1か月のレンタル車椅子にかかる総負担費用10%削減		
実施した対策	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子レンタルの種類別価格表作成 ・車椅子選定・調整に関する勉強会を業者に依頼して実施 ・病棟にて常時レンタルしている車椅子の台数削減に向けた運用方法の見直し 		
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前) <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんの身体機能に対して、車椅子の性能に合わせた選定ができていない。またコスト意識が低い。 ・病棟に保管されている車椅子の見直しが開設当初からされていない。ルール化されていない。 (実施後) <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を通して、選定の仕方を職員が理解しやすくなったことで、コスト削減につながった。 ・病棟保管の車椅子の定期的な見直しのルール化がされチェック体制が整備された。 		
歯止めと標準化	標準化: 車椅子の機能と価格表を作成し見える化。車椅子の台数管理表の作成と運用方法見直し 管理: 病棟車椅子の適切な台数の管理 教育: 新人教育に利用することや、定期的な業者との連携を通して、車椅子の理解を深める		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動	チーム メンバー (職種)	1 上間 貴史 作業療法士
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門		2 久保 雅昭 理学療法士
活動期間	令和3年4月 ~ 12月		3 丸山 祥 作業療法士
リーダー名 (職種)	上間 貴史 (作業療法士)		4 木村 侑里南 作業療法士
活動回数	5 回		5 坂上 夏菜 作業療法士
			6 後藤 達也 作業療法士

【現状把握】

当院では
入院サービスの一環として
患者さんの身体機能にあわせた
レンタル車椅子を提供

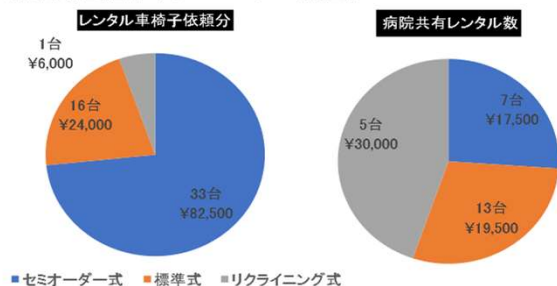
レンタル費用は病院負担

機種により価格が違う

【当院の主なレンタル車椅子(1ヶ月レンタル費用)】



【現状把握】(4/12~5/10調査)



【現状把握】

1か月のレンタル合計費用円	
患者さん用	112,500
病棟保管用	67,000
総負担費用	179,500
車椅子1台当たり(台)	2,393

- 1) 標準型が適応患者さん(特に整形患者さん)に対して
→セミオートマー式が提供されているケースあり
- 2) 病棟保管用車いすの定数が開設当初から見直されていない
→余分なレンタル費用が掛かっている可能性

【目標設定】

【目標の設定】



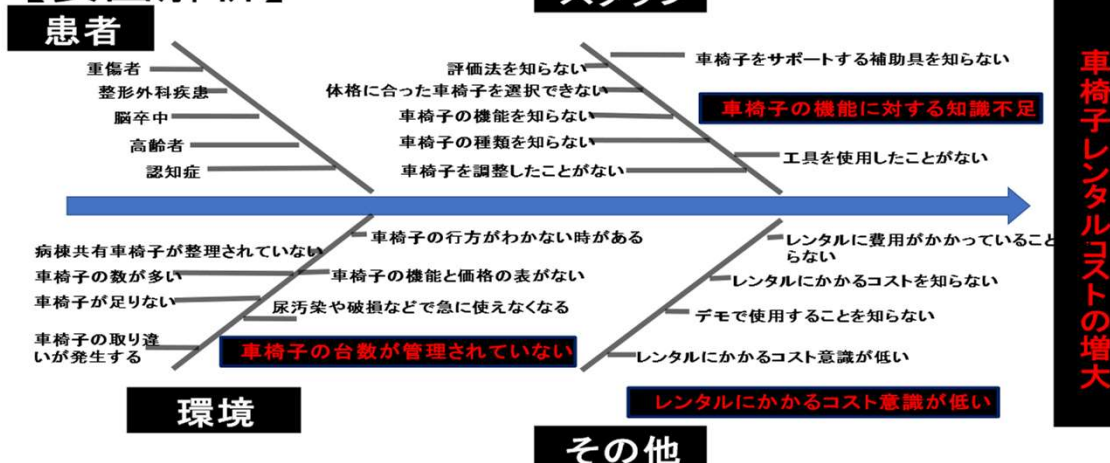
車椅子レンタル総負担額 現状の10%削減

何を
なぜ
誰が
いつ
どこで
どのように

入院患者さんの現在の身体機能を把握すること
適切な車いすを選定するため
リハビリのセラピスト全員
令和3年9月末まで
リハビリテーション部
レンタルにかかる費用を10%削減

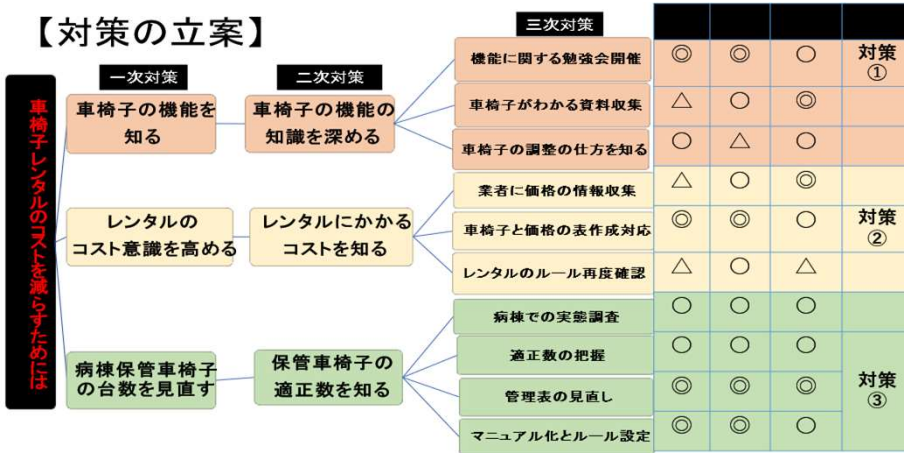
【要因分析】

【要因解析】



【対策の立案と実施】

【対策の立案】



対策①

zoomでの研修
(業者によるプレゼン)



対策②

車椅子の主な機能・価格表作成

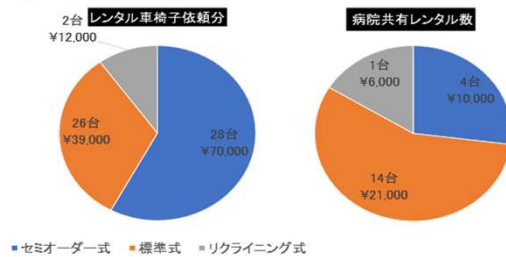
対策③

管理表の見直し・マニュアル化

【対策の実施】

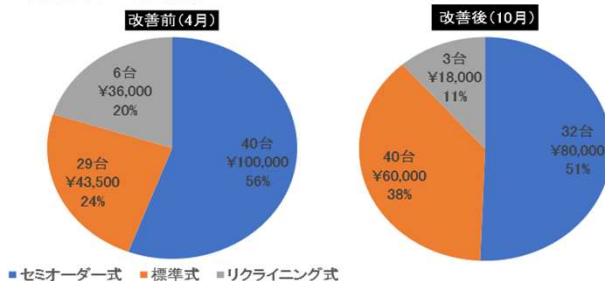
対策	何を	なぜ	誰が	いつ	何処で	どうする
①	車椅子の機能の勉強会を	機能の知識を深めるために	レンタル業者が	9月末まで	リハ部で	実施
②	車椅子の機能と価格をまとめた表を	分かりやすいようにするため	メンバーが	9月末まで	リハ部で	作成 マニュアル化
③	病棟保管の車椅子の定数を	稼働に合わせた数を選定するため	補助員係が	3か月ごと	病棟で	数の適正数を見直すことをルール化

【対策の実施】(10/18~11/17再調査)



【効果の確認】

【効果の確認】



【効果の確認】1か月のレンタル合計費用(円)

	改善前	改善後
患者さん用	112,500	121,000
病棟保管用	67,000	37,000
総負担費用	179,500	158,000
台数	75台	75台
車椅子1台当たり	2,393	2,107

総負担額費用12%削減

【効果の確認】

目標達成

(車椅子レンタル総負担費用10%削減)

有形効果

- ◆ 実施前のセミオーダー式の車椅子依頼数が減少

無形効果

- ◆ スタッフが車椅子の機能と価格を意識できるようになった
- ◆ 車椅子の機能がうまく活用できるようになった
⇒ 患者の機能改善にも良い影響をもたらした

波及効果

- ◆ マニュアル化: 車椅子の取り違いや紛失を防ぐことに繋がった
- ◆ 業者との連携が密となり 連携を取りやすくなった

【標準化と管理の定着】

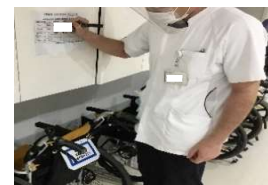


	何を	何故	誰が	いつ	どこで	どのように
標準化	車椅子の機能と価格表	機能の適合とコスト意識を持つ	メンバー	8月まで	リハ部	作成しマニュアル化
	車椅子の台数管理表	病棟で定数を維持管理	補装具係中心	8月まで	病棟	適切な台数を把握した上で再作成
管理	車椅子の病棟の台数	適切な量で管理	補装具係中心	3ヶ月おき	病棟	定期的にチェックし維持管理
教育	車椅子のレンタルにかかる料金	新入職員又は新人がすぐに理解	情報伝達者が	入職時	リハ部	車椅子の機能と価格表を用いて説明
	車椅子に関わる勉強会	機能や調整などの方法理解	車椅子レンタル業者と協力して	毎年度	リハ部	開催（車椅子の機能・調整の仕方を学ぶ）

【反省】

良かった点

- ◆コスト削減につながった
- ◆レンタル業者との連携強化につながった
- ◆環境が整備され車椅子の取り違いなどのミスを防ぐことにつながった
- ◆継続的に実施可能となった（管理面・教育面ともに）



悪かった点

- ◆車椅子の選定については改善したが、別の移動手段における身体機能の把握が不十分

【今後の課題】

コスト削減の限界

- * 入院患者さんの身体機能によりコスト削減には限界がある

（ex.重症患者さん人数によりコストが増減）

車椅子の変更（シーティングの知識の向上）

- * 患者さんの身体機能の変化に応じた車椅子の変更（ex.リクライニング→標準型へ）

- * 多職種からの情報提供体制の構築

（ex.長時間車椅子離床に対して等）